

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
母性看護学概論	2年前期	1	30	(助産師として16年半)
<b>科目のねらい</b>				
母性看護を概念や歴史の変遷、現在の社会情勢からとらえるとともに、ライフサイクルから見た女性の特徴、健康問題を理解する				
<b>到達目標</b>				
1. 母性看護の基盤となる概念について理解できる 2. 母性看護を取り巻く社会状況について理解できる 3. 各ライフサイクルにおける女性の健康問題の特徴と看護について理解できる				
<b>DPとの関連</b>				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎ 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
1 2 3 4	1. 母性看護の基盤となる概念について説明できる	1. 母性とは 2. 母子関係と家族発達 3. セクシャリティ 4. リプロダクティブヘルス/ライツ 5. ヘルスプロモーション 6. 母性看護のあり方 7. 母性看護における倫理	講義	
5 6	2. 母性看護の歴史の変遷と社会の現状について説明できる	1. 日本の母性看護の変遷 2. 母性看護に関わる統計指標 3. 母性看護に関連する法律と施策 4. 母性看護の提供システム	講義	
7 8	3. 母性看護の対象の特性を説明できる	1. 女性のライフサイクルにおける形態機能の変化 2. 女性のライフサイクルと家族 3. 女性の発達・成熟・継承	講義	
9 10	4. ライフサイクルにおける女性の身体変化と健康問題について説明できる	1. 女性の身体機能の変化と健康問題 2. 思春期における健康と看護 3. 成熟期の健康と看護 4. 更年期・老年期の健康と看護	講義	
11 ～ 14	5. リプロダクティブヘルスケアに関する主要な健康問題について考え表現できる	1. 家族計画 2. 性感染症と予防: 淋病、梅毒、クラミジア、性器ヘルペス、カンジダ 3. HIV感染した女性の看護 4. 人工妊娠中絶と看護 5. 喫煙と女性の看護 6. 性暴力を受けた女性の看護 7. 児童虐待と看護 7. 在日外国人の母子保健	講義 演習	
15	6. 出生前からのリプロダクティブヘルスケアについて説明できる	1. 出生前診断とは 2. 出生前診断の実際 3. 不妊とその原因 4. 不妊検査 5. 不妊治療	講義	
<b>受講上の注意</b>		<b>関連科目</b>		
・積極的な姿勢で講義に臨むこと。		社会学(家族関係論) 疾病論V 母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 母性看護学実習		
<b>事前および事後学習</b>				
関連科目の既習内容は復習しておく				
<b>成績評価の方法</b>				
筆記試験70% 課題レポート30%				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b>				
教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
母性看護学方法論 I	2年前期	1	15	(医師として14年) (助産師として38年)
<b>科目のねらい</b> 妊娠・分娩・産褥期までの生理的変化と異常を理解し、看護実践の根拠に関連付けることができる				
<b>到達目標</b> 1. 妊娠・分娩・産褥期の生理的な変化について理解できる 2. 妊娠・分娩・産褥期までの逸脱した状態について理解できる				
<b>DPとの関連</b> ◎ 2.人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 ◎ 3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 妊娠期の身体的特性を説明できる	1. 性周期とホルモン 2. 妊娠の生理 3. 母体の生理的変化 4. 妊娠の経過と検査	講義	
2 ・ 3	4. 妊娠期の異常について説明できる	1. 妊娠偶発合併症 心疾患、糖尿病、甲状腺疾患、精神疾患、気管支喘息、腎泌尿器疾患、消化器疾患、血液疾患、婦人科疾患 2. 妊娠疾患：妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、血液型不適合妊娠 3. 妊娠持続期間の異常：流産、切迫早産、過期妊娠、過期産 4. 多胎妊娠 5. 異所性妊娠：卵管・卵巣・腹膜・頸管妊娠 6. 妊娠期の感染症：風疹、トキソプラズマ、サイトメガロ、単純ヘルペス 水痘、B型肝炎、C型肝炎	講義	
4	2. 分娩の要素と経過について説明できる	1. 分娩、分娩の3要素 2. 分娩の経過 分娩の進行と産婦の身体的変化 産婦の身体的変化 産痛 分娩が胎児に及ぼす影響	講義	
5	3. 産褥期の身体的変化について説明できる	1. 産褥復古現象 2. 乳房の変化	講義	
6 ・ 7	5. 分娩期の異常について説明できる	1. 産道の異常：COD、狭骨盤 2. 娩出力の異常：微弱陣痛、過強陣痛 3. 胎児異常による分娩障害：巨大児、低出生体重児、骨盤位、回旋異常 4. 胎児付属物異常：前置胎盤、常位胎盤早期剥離、臍帯脱出、羊水過多、羊水混濁 5. 胎児機能不全 6. 分娩時損傷：子宮破裂、頸管裂傷 7. 分娩時異常出血：参加ショック、羊水塞栓症、DIC 8. 産科処置：会陰切開、吸引分娩、帝王切開	講義	
8	6. 産褥期の異常について説明できる	1. 子宮復古不全 2. 産褥期発熱 乳腺炎 3. 産褥精神障害 マタニティーブルー、うつ病	講義	
<b>受講上の注意</b> ・積極的な姿勢で講義に臨むこと。		<b>関連科目</b> 疾病論Ⅴ 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学方法論Ⅲ		
<b>事前および事後学習</b> 関連科目の既習学習は復習しておく				
<b>成績評価の方法</b> 筆記試験100%				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b> 教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
母性看護学方法論Ⅱ	2年前期	1	30	(助産師として16年半)
<b>科目のねらい</b>				
周産期にある人の特徴と看護を理解し、看護実践の基盤を身につける				
<b>到達目標</b>				
1. 妊娠・分娩期における身体的・精神的・社会的変化及び健康問題を理解できる 2. 妊娠・分娩期におけるセルフケアと健康増進を促す看護援助を理解できる 3. 妊娠・分娩期にある母子の健康状態を観察・評価するための看護技術を身につけることができる				
<b>DPとの関連</b>				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎ 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 妊娠における身体的・精神的・社会的変化を述べることができる	1. 妊娠期における看護 1) 妊娠期の身体的特性(既習) 2) 妊娠期の心理・社会的変化 ・妊婦の心理 ・妊婦と家族及び社会	講義	
2 3	2. 妊娠期にある母子の健康状態を観察・評価するための看護技術を実施することができる	2. 妊婦と胎児のアセスメント 1) 妊娠とその診断 2) 妊娠期に行う検査と目的 3) 胎児の発育と健康状態の診断 4) 妊娠経過のアセスメント	講義	
4 5	3. 妊娠期におけるセルフケアと健康増進を促す看護援助を述べることでできる	3. 妊婦と家族の看護 1) 妊婦が受ける母子保健サービス 2) 妊婦の健康相談・教育の実際 妊娠中の食生活 排泄 清潔 衣生活 活動休息 勤労 性生活 マイナートラブル 3) 親になるための準備教育 出産準備教育 育児準備 家族役割調整	講義	
6 7	4. 妊娠期における異常とその援助について述べるができる	4. ハイリスク妊婦の看護 1) 高齢・若年妊婦の看護 2) 肥満・過重体重増加妊婦の看護 3) 合併症のある妊婦の看護(心疾患、糖代謝、子宮筋腫) 4) 妊娠高血圧症候群妊婦の看護 5) 切迫流早産妊婦の看護 6) その他の問題のある妊婦の看護	講義	
8 9	1. 分娩期における生理的变化を理解し、産婦の看護を述べるができる	1. 分娩期における看護 1) 分娩の3要素と分娩経過(既習) 2) 産婦の心理・社会的変化	講義	
10	2. 分娩期にある母子の健康状態を観察・評価するための看護技術を実施することができる	2. 産婦・胎児と家族のアセスメント 1) 産婦と胎児の健康状態 2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント 3) 看護上の問題の明確化	講義	
11 12	3. 分娩期におけるセルフケアと健康増進を促す看護援助を述べることでできる	3. 産婦と家族の看護 1) 安全・安楽な分娩への援助 2) 肯定的な出産体験への促し 3) 基本的ニーズの充足への援助 4. 分娩期の看護の実際 1) 分娩1期～4期までの看護 2) 無痛分娩	講義	
		4. 異常のある産婦の看護 1) 破水のある産婦の看護		

13 14 15	3. 分娩期における異常とその援助について述べるができる	2) 分娩遷延にある産婦の看護 3) 胎児機能不全のリスクのある産婦の看護 5. 異常分娩時の産婦の看護 1) 弛緩出血 2) 頸管裂傷 3) 膣・会陰血腫 3) 会陰裂傷・会陰切開	講義	
演習：妊婦体験。腹囲・子宮底長測定、レオポルド触診法、児心音測定、分娩監視装置の取り扱い、産痛緩和、胎盤計測				
<b>受講上の注意</b>		<b>関連科目</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレテスト、ポストテストを実施し、成績評価に反映する。</li> <li>・能動的な講義形式である。積極的な姿勢で講義に臨むこと。</li> </ul>				
<b>事前および事後学習</b>				
関連科目の既習学習は復習しておく				
<b>成績評価の方法</b>				
筆記試験100%				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b>				
教科書				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院				

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
母性看護学方法論Ⅲ	2年後期	1	30	(助産師として16年半)
<b>科目のねらい</b>				
周産期にある人の特徴と看護を理解し、看護実践の基盤を身につける				
<b>到達目標</b>				
1. 正常な産褥経過について理解できる 2. 正常な経過をたどる褥婦の看護を理解し、必要な看護技術が実施できる 3. 正常な新生児の経過について理解できる 4. 正常な経過をたどる新生児の看護を理解し、必要な看護技術が実施できる 5. 産褥期と新生児の正常を逸脱した状態と看護について理解できる。				
<b>DPとの関連</b>				
1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
1	1. 産褥期における身体的・精神的・社会的変化を述べることができる	1. 妊娠期における看護 1) 産褥経過 (既習) 2) 産褥期の心理・社会的変化 ・褥婦の心理 ・家族の心理的变化	講義 演習	
	2. 産褥期にある母体の健康状態を観察・評価するための看護技術を実施することができる	2. 褥婦のアセスメント 1) 産褥経過の診断 進行性変化 退行性変化 2) 褥婦の健康状態のアセスメント	講義 演習	
2 3	3. 妊娠期におけるセルフケアと健康増進を促す看護援助を述べることできる	3. 褥婦と家族の看護 1) 進行性変化への援助 2) 退行性変化への援助 3) 育児にかかわる援助 4. 退院後の生活看護 1) 産後の生活調整 2) 産後の健康診査と子育て支援 3) 職場復帰	講義 演習	
	4. 産褥期における異常とその援助について述べることできる	5. 異常のある褥婦の看護 1) 感染症の援助 2) 乳房トラブル 3) 本人・児が健康問題を抱えている場合の援助 4) 育児に困難さを抱える褥婦への援助 6. メンタルヘルスを抱える母親への援助	講義 演習	
6	5. 新生児期における生理的变化を理解し、新生児の看護を述べることできる	1. 新生児の生理 1) 新生児とは 2) 新生児の機能	講義 演習	
7	6. 新生児の健康状態を観察・評価するための看護技術を実施することができる	2. 新生児のアセスメント 1) 新生児の診断 2) 新生児の健康状態のアセスメント	演習	
8	7. 新生児期の成長発達を促す看護援助を述べることできる	3. 新生児の看護 1) 出生直後の援助 2) 出生後から退院までの援助 3) 1か月健診に向けた退院時の看護	講義 演習	
9 10	8. 新生児期における異常とその援助について述べることできる	4. 新生児の異常と看護 1) 新生児仮死、 2) 分娩外傷 3) 低出生体重児とその看護 3) 高ビリルビン血症とその看護	講義	
	8. 周産期の看護過程を通して、計画立案できる	5. 母性看護における看護過程 1) 対象把握		
11				

～ 15	2) 看護問題の明確化 2) 看護計画の立案と実施	演習
演習：新生児のバイタルサイン測定、新生児計測、沐浴、黄疸測定、育児技術、授乳方法、哺乳		
<b>受講上の注意</b> ・プレテスト、ポストテストを実施し、成績評価に反映する。 ・能動的な講義形式である。積極的な姿勢で講義に臨むこと。		<b>関連科目</b> 看護基本技術Ⅲ 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学方法論Ⅱ
<b>事前および事後学習</b> 関連科目の既習学習は復習しておく		
<b>成績評価の方法</b> 筆記試験100%		
<b>教科書・参考書・その他の教材</b> 教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院		

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
母性看護学実習	3年前期	2	90	(助産師として16年半)
<b>重点目標</b> 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の生理的な経過の特徴と、女性とその家族のライフスタイルにおける健康を保持増進するための看護を理解する				
<b>到達目標</b> 1. 自己のビジョンを明らかにし、自分の意思で実習準備ができる 2. 対象者の観察や看護職とともに健康を保持増進するための諸活動（健康診査・保健指導等）に参加する 3. 実習体験やカンファレンスを通して、対象者の健康状態に応じた支援や多職種連携について学んだことを共有する 4. 実習を通して、母性・父性・家族・生命の尊厳について考える 5. 看護学生として望ましい態度で実習に臨むことができる				
<b>DPとの関連</b> 1. 多様な文化や価値観を受け入れ、対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として捉えることができる。 ◎ 2. 人を尊重し、思いやりの心をもって行動することができる。 3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。				
<b>授業計画</b>				
回	目標	学習内容	方法	担当
10日間	臨地実習要項参照	1. 妊娠期 妊婦健康診査 保健指導見学 2. 分娩期 分娩見学 一部援助 3. 産褥期 産褥期の観察・援助 4. 新生児期 新生児の観察、沐浴の見学、実施 5. 看護過程のアセスメントの実施	臨地実習	
演習：新生児のバイタルサイン測定、新生児計測、沐浴、黄疸測定、育児技術、授乳方法、哺乳				
<b>受講上の注意</b> 学生として真摯な態度で臨む 担当になってもらえる妊婦産婦褥婦さんや家族に対して感謝の気持ちで接する		<b>関連科目</b> 看護基本技術Ⅲ 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学方法論Ⅲ		
<b>事前および事後学習</b> 関連科目の既習学習は復習しておく				
<b>成績評価の方法</b> 実習評価表に基づき評価する				
<b>教科書・参考書・その他の教材</b> 教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院				